

タイ

パーツ高が進展

SMBC Asia Monthly

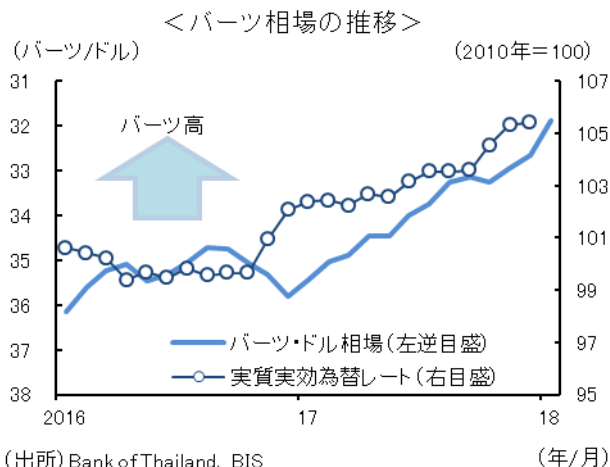
日本総合研究所 調査部

副主任研究員 熊谷 章太郎

E-mail : kumagai.shotaro@jri.co.jp

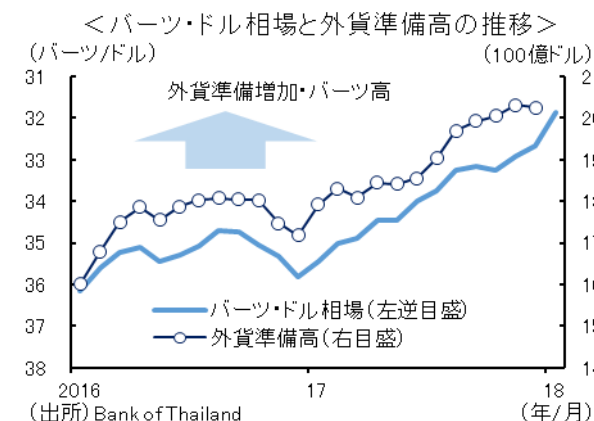
■パーツ高が加速

タイでは、資源価格の落ち着きにより輸入が抑制される一方、世界景気の回復を背景とした輸出増加により、貿易・経常収支改善に伴うパーツ高圧力が強い状況が続いている。また、タイ経済の持ち直し基調が明確化するなか、資本収支面からのパーツ高圧力も強まりつつあり、2016年後半以降、パーツ高が加速している(右上図)。本年1月には米財務長官のドル安容認示唆を受けて世界的にドル安の流れが強まったこともあり、1ドル=31パーツ近辺までパーツ高が進展した。



■中央銀行は利下げ以外の手法でパーツ高に対応

パーツ高への対応を巡っては、輸出競争力の低下を懸念する観点から、これまでも産業界や財務省から、中央銀行に対して利下げを求める声が出ていた。しかし、中央銀行は、景気持ち直しを受けてインフレ率が次第に高まっていくと見込まれることや、高水準の家計債務に与える悪影響等を懸念し、2015年4月に政策金利(レポ・レート)を1.5%に引き下げて以降、据え置きを続けている。その一方で、対外投資にかかわる資本規制の緩和や為替介入を通じて過度なパーツ高の是正に取り組んでいる。ドル買い・パーツ売り介入の結果、外貨準備高は2016年初の約1,600億ドルから、足元にかけて名目GDPの4割強に相当する約2,000億ドルまで増加している(右下図)。これは、財・サービス輸入額の約9ヵ月分、短期対外債務残高の約3年分と、それぞれの健全性の目安とされる水準の約3倍に相当する。現在までのところパーツ高傾向には歯止めがかかっていないものの、仮に一連の為替介入が行われなかった場合、足元の水準以上にパーツ高が進んでいた可能性が大きい。



中央銀行は、資本財輸入に繋がる投資を奨励し、内需を拡大することでパーツ高圧力の緩和を目指すとともに、為替ヘッジの活用や決済通貨の変更を企業に推奨する等、利下げ以外の手法によるパーツ高対策を続けている。なお、1月中のパーツ高には、非居住者口座を用いた巨額の投機がかかわっていた可能性を取り沙汰されており、中央銀行は、それらの取引内容を検証したうえで、今後の対応を決定することとしている。仮に、足元のパーツ高に対して投機が大きな影響を与えていたと判断されれば、中央銀行は、株価などに与える影響に十分に配慮しながらも、投機抑制に向けた資本流入規制措置を講じる可能性がある。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。